

牛久：学校周辺に見る自然

第51号 宮内家(稲敷市)、坂東市、千葉県旭市

2011年1月18日発行

<冬の花と動物たち>



遅くなりましたが、まずは、明けましておめでとうございます。2011年もよろしく願います。上の写真は、私の故郷、千葉県くじゅうくりはま九十九里浜北端からの初日の出。左の台地の突端が、銚子から続く屏風ヶ浦びょうぶがうらの南端、刑部岬ぎょうぶみさきです。

さて、年が明けて、夏の猛暑もうしよがうそのように冷え込む日が続いていますが、そんな中でもきれいな花を咲かせ、蜜みつや花粉をごほうびに、動物たちに花粉を運んでもらっている花たちが



がいます。そのいくつかをご紹介します。

まず、我が家のサザンカ。秋に木の実を食べに来て以来、姿を見せていなかったメジロが盛んに蜜を吸っていきます。くちばしが花粉で黄色くなっていました。鳥の目につくように赤い大きな花を咲かせ、たくさんの花蜜を用意して、遠くまで花粉を運んでもらっているのですね。



次にヤツデ。ヤツデは小さな花がたくさん集まって丸いかたまりをつくり、さらにそのか



↑左からハナアブ、ホソヒラタアブ、ツマグロキンバエ

たまりが多数集まっていますが、花は雄しべの成熟した雄の花から雌しべの成熟した雌せいじゅくの時期へと変化し、自分の花の花粉がつかない

ようなしくみをもっています。またこの時期はハナバチやチョウの仲間ほとんど活動できず、ハナアブやハエの仲間が来て、蜜を吸っては花粉を運んでいきます。ヤツデの花は蜜が露出しているのです、口の短い彼らでも問題なくなめとることができるのです。こうして花と



昆虫のつながりができるのですね。最後にウメに来たホソヒラタアブ。ハナアブの仲間は移動距離が短いので同じ木の花粉が着くことが多いのですが、それをメジロなど鳥の仲間が補って、遠くの仲間の花まで花粉を運んでくれるているのです。【理科支援員・宮内】